

次回のご案内

「医療の効率化・AI化のこの企画はコロナ

～経営学・アート・多様性から考える私たちの病院像～

ウイルス感染防止のため中止します

18:00～19:30

会場：耳原総合病院2階

講師：早川佐知子



明治大学経営学部公共経営学科 専任講師
(医療経営学・医療マネジメント論・人事労務管理)
2014年より、耳原総合病院のホスピタルアートの意義について調査、論文発表されました。

異文化コミュニケーションカンファレンス



講師の石田勇治東京大学教授

講演 歴史の「公的記憶」が根付くドイツ 日本は？

1月16日、歴史の「公的記憶」と題してドイツ近現代史を研究されている東京大学の石田勇治先生をお招きし、講演していただきました。耳原総合病院の奥村病院長が、全日本民医連の会議で石田先生の講演を聴き、病院にぜひお招きしたいと数年をかけて実現した企画でした。この数年、日本と韓国、日本と中国の間で先の戦争とその被害・加害の認識をめぐる鋭い対立が続いているなかで、同じように近隣諸国への侵略と他国民・他民族への虐殺といった「負の歴史」を持ちながらも、近隣国との信頼関係を築き上げてきたドイツの歩みを知ること、日本人としてどんな歴史認識を持つ必要があるのか、考えられる機会となりました。

講演では、ドイツの歴史認識も決して一筋縄ではなく、時をかけて、変化を経ながら、近隣諸国への謝罪と一定の信頼を築き上げたことを知りました。その過程では、戦争責任を問う市民の運動や戦後生まれの若者による親世代への問いかけ（お父さん、あの時なにをしていたの？）などがあつたと紹介されました。そして今日のドイツでは、戦争での侵略や人権侵害の歴史について、今のドイツ人に直接の罪はなくとも、加害の事実を忘れない責任があるという確かな価値観・規範が根付いているとのことでした。この価値観・規範にもついていた歴史認識を「公的記憶」として受け継いでいくために、様々なモニタメントの設置や展示などを通して、絶えず「想起する」文化が根付いているとのことでした。

講演を聞き、ドイツと日本との「差」は何なのか考えました。日本では、先の戦争の「被害の歴史」は繰り返し想起され、受け継

がれているものの、加害の歴史はどうか。勿論、「被害の歴史」を想起し続けてきたことで、戦争自体の放棄を掲げる憲法の理念が連綿と引き継がれてきました。核兵器廃絶の声も同様です。これは大変重要なことです。一方で、「加害の歴史」は十分だったのでしょうか。戦争放棄の考えや核兵器廃絶の声をアジア・世界のなかで広めていくためにも、「加害の歴史」



院外からの参加も多く、注目度の高さがうかがえました

理事会報告

1月理事会（概要）

開催日時
2020年1月23日（木）
午後6時～7時40分
出席 理事23名 監事2名

◆主な内容

- ◆報告
 - ・拡大常任理事会概要報告、各種委員会報告
 - ・健康友の会みみはら、社保・平和・まちづくりのとりくみ
 - ・無料低額診療の各事業所実績及び大腸がん検診の取り組み
 - ・12月度及び第3四半期の経営
- ◆協議・確認事項
 - 【幹部交代について】
 - ・耳原実費診療所70周年、再建20年記念企画について意見交換後、承認した
 - ・坂本能基産婦人科部長を耳原総合病院副院長に任免する提案を承認した。

結果、協同基金の取り組み出席理事全員がこれを確認した。

大野権一先生を偲ぶ会を大阪民医連、大阪みなみ医療福祉生協、同仁会で実行委員を結成し3月もしくは4月実施で調整

(総合病院事務局長 森 高志)

がっています。また、自分の大切な時間を友の会会員同士の助け合いとして活動されている担い手の皆さんに心から敬意を表します。

—友の会や患者・利用者さんへの期待や伝えたい思いは？

「三置き場まで三を出しに行けない、高い所の物を下ろせない、ペットボトルのふたが硬くて開けられない、電球が切れたが替えられない等、介護保険では利用できないちょっとした困りごとがあるなど、地域に

は、まだまだ安心して住み続けることに困難を抱えておられる方がたくさんおられます。「誰かの役に立つ」ちょっとした支え合いにあなたの大切な時間を

お貸しください。ぜひ支援者としての登録をお願い致します。

—「結いの会ともつす」の事務局長を引き継がれる城世津子さんにも、大坪さんへの思いや豊當を語っていただきました。

私が耳原に就職したときの上司が大坪さんでした。民医連の事務としてのイロハを教えてくださいました。最後までお世話になることに運命的なものを感じています（笑）

この4月からNPOの仕事を引き継ぎ、地域、友の会との共同で支えあい活動をひろげていきたいと思っています。また同時に、高齢者をはじめとした社会的弱者への公的助成（公助）を切り捨て、自助・共助へと進もうとする社会の流れを食い止めるための運動も推進しなければなりません。感じています。地域の事態を知らせ、事例をもつて自治体交渉に取り組みなど、みみはらグループの力をひとつにして頑張りたいと思います。



大坪さん(左)から城さん(右)にバトンタッチ

「最後まで社会参画し、有意義な人生にしたい。そのためには健康に留意し、今日用がある「きょうみみ」と今日いなく所がある「きょうみみ」をたくさん作り、人とのふれあいを大切にしたいと思っています」と話される大坪さん。

ん。長く貢献していただいた「みみはら」での経験をしっかりと伝えながら、事務局長の任を後継の城さんに引き継ぎ、今後は「結いの会ともつす」の代表理事として関わっていただけたことになっていきます。